

2018年度アジアフォーラム 21 シンポジウムを開催しました。

日 時：2019年2月26日（火）14：00：～16：30

場 所：山梨県立大学A館6階サテライト教室

参加人数：約40人

テーマと講師

<基調講演1>

わが国の観光の現状と課題 ～空前の活況を呈するインバウンドの課題と対策～

内藤 嘉昭 氏 拓殖大学教授

<基調講演2>

富士急行グループの取り組みと今後の戦略

～富士急行グループの体制、インバウンドの利用者動向、営業施策等の取り組み～

榎 裕治 氏 富士急行株式会社執行役員営業部長

<ディスカッション>

コーディネーター：吉田 均 氏 山梨県立大学教授

パネリスト：内藤 嘉昭 氏 榎 裕治 氏

セミナーの概要

<基調講演1>

観光関連産業について、地理や歴史的な観点から研究されており、始めにアウトバウンドとインバウンドの関係の歴史についてご説明をいただきました。その中で1970年代半ばまでは、アメリカのインバウンドが5割を占めていたが、現在は中国、韓国、台湾、香港で7割を占めると説明がありました。また中国と韓国の対日世論調査、中韓訪日旅行者への満足度調査の結果をもとに、中国人や韓国人は日本に嫌悪感を抱きながらも、訪日意欲は高く、旅行した際の満足度も非常に高いといった大変興味深いデータもご紹介いただきました。こういった事例をもとに観光とは何かを考える機会になりました。



<基調講演2>

富士急行株式会社の事業内容や年譜、経営する観光施設等の紹介に続き、インバウンドの状況について、ご説明をいただきました。観光施設別の外国人観光客の利用者状況や、団体客・FIT（個人で行く旅行）の分析のほか、アジア諸国における営業体制や、自社で行っているアンケート結果などを通じた、今後のアジア人旅行客の展望や自社の今後の方向性等についてご紹介いただきました。

特に今後重要となってくるインバウンド強化のための施策として、OTA（インターネット上で取引を行う旅行会社）の活用と、SNSによる情報発信を挙げていただきました。参加者の方々にも大変参考になる講演となりました。



<ディスカッション>

基調講演後には、内藤教授、榎部長をパネリスト、吉田教授をコーディネーターとしてディスカッションを行いました。「それぞれの視点から見たアジアからの観光客の特徴」「アジアからの観光客受け入れに対する課題」「さらなるインバウンド成長のための必要な施策」の3つのテーマについて、3人それぞれの視点から意見交換を行い、最後には参加者の皆様とも積極的な意見交換を行うことができました。

